

議 事 録

会 議 名	第 16 回 J C H O 金沢病院 地域連絡協議会		
開 催 日 時	令和 5 年 8 月 25 日 (金) 19:00~20:20	開 催 場 所	金沢病院 2 階 講義室・WEB
出 席 者	表賢二 (石川県健康福祉部医療対策課課長)、松本尚人 (金沢市福祉健康局健康政策課課長) 小西正則 (金沢市消防局警防課救急救助係長 (蔵消防局長の代理出席))、安田健二 (石川県 医師会会長)、鍛冶恭介 (金沢市医師会会長)、沖野惣一 (河北郡市医師会会長)、真田弘美 (石 川県立看護大学学長)、松野茂夫 (諸江地区民生委員児童委員協議会会長)、福島興士 (患者 代表) 村本弘昭 (J C H O 金沢病院院長)		
欠 席 者	なし		

議 事 内 容

1. 開 会

(小西事務部長)

※ 配布資料の確認

只今より、独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院第 16 回地域連絡協議会を開催いたします。

2. 委員紹介

(小西事務部長)

※ 委員名簿の順に委員を紹介 (各委員からの挨拶は割愛)

本日の協議会は会則に従いまして、村本委員が議長となり進めさせていただきます。

また、議事録は後日お送りさせていただき、ご確認して頂いた後に当院ホームページにて公開いたします
のでご了承願います。

3. 議長挨拶

(村本議長)

本日はご多用のところ、当院の第 16 回地域連絡協議会にご参加いただき誠にありがとうございます。毎
回冒頭に申し上げていることなのですが、忙しい皆さんの時間をお取りして大変心苦しく思っております。

この協議会は当院の名称、すなわち地域医療機能推進機構とありますように、地域に貢献することが法律
上義務付けられております。そのため、年 2 回このように委員の皆様にご参加いただき、ご意見をいただく
ことになっておりますので、本日はよろしくごお願い申し上げます。

4. 議題 (1) 当院の現況について

(村本議長)

議題の (1) として当院の現況とあります。引き続き私の方からご報告申し上げます。

まずコロナですが、相変わらず猛威を振るっています。現在コロナ陽性の入院患者は 20 名を超えており、

大部分が高齢者です。何らかの合併症をお持ちで、誤嚥性肺炎の併発や、この猛暑における熱中症の併発というものが多く、30床の確保病床は7割から8割が埋まっている現状です。治療に関してはそれなりに順調と思いますが、もう一つの問題は職員の感染が後を絶たないということです。早くこのコロナと猛暑が落ち着いてほしいというのが切実な願いかと思えます。

次に経営に関してですが、先日、当機構の理事長からメッセージが発出され、JCHOに限らずどこもそうだと思いますが、非常に経営が厳しく、4月から6月の四半期で今までにない赤字を計上しており、補助金による蓄えはあつという間に底をつくだらうという厳しい内容でした。これは先日、金沢大学関連病院長会議でも金大の蒲田院長が同様のことを述べておられ、コロナ後の業績回復が思わしくなく、これは全国共通のようで、病床のダウンサイジングも視野に入ってくるとのことでした。当院に関しましては、幸いJCHO57病院中16の黒字病院に入っており、経営に関しては以前から優良病院とされており、今のところ心配はしておりません。

ただし、問題は地域医療構想における当院の在り方とでもいうべき点です。限られた医療資源を各地域において有効に活用するというのが地域医療構想だろうと理解しておりますが、入院病床に関しては急性期病床が地域に多すぎるとして議論が進行しております。また、外来診療に関してはクリニックと病院の役割分担を促進するための紹介受診重点医療機関制度というものが近く始まります。これは、まず患者さんはクリニックに受診し、詳しく調べた方がいいとされたら紹介状を持って病院に受診してもらう。そして紹介状のない初診患者さんはこれまで以上の特別料金が徴収されるという制度です。先日、県内15病院が承認され、当院を含めた3病院が辞退したという内容が北國新聞に掲載されました。実際、この辞退した3病院の言い分を聞く会議が先日行われ、3病院ともかかりつけ医としての機能を持っており、この紹介状が必須となると患者にとって不利益だというものでした。もちろん本音のところでは経営的にマイナスであるというのがあります。当院においては本部からなぜ手を挙げないのかという照会もありました。行政からはクリニックと病院の役割分担という国策であるという声も届いております。よって当院としては1年かけて、実際はあと半年ですがクリニックからの紹介で成り立つ病院に変身すべく、半年後の手挙げに向けて頑張ることといたしました。これは決して簡単なことではないと思っておりますが、病院スタッフ一丸となって頑張っていく所存です。大変雑駁な話をしてしまいましたが、それだけ危機感を持っているとご理解いただければ幸いです。

後程まとめてご意見をいただければと思いますが、今この場でご発言があるようでしたらお願い致します。

それでは(2)の医療の質の指標に関して事務部長からご説明申し上げます。

4. 議題(2) 医療の質の指標(令和4年度)

(小西事務部長)

それでは議題4(2)令和4年度医療の質の指標につきまして、私からご説明申し上げます。

※ 医療の質の指標 資料に沿って説明

5. 当院へのご意見・要望等

(村本議長)

それでは皆様方からご意見を頂きたいと思いますが、沖野先生いかがでしょうか。

(沖野委員)

令和4年度もコロナで夏も冬も大変だったのに、前年に比べて診療の実績は悪化した部分はなく、素晴らしいのではないかと思います。特に入院患者さんは高齢の方が多くて90歳以上が12%ぐらいいるというのはおそらく非常に看護的には大変だろうと思いますし、感心いたします。

診療指標とは直接関係ありませんが、コロナの患者さんを積極的に受け入れておられますが、院内や病棟などで感染のクラスターが起こらなかったかという点と、感染対策上、現時点で患者さんの面会をどのように対応されているか教えていただければと思います。

(村本議長)

クラスターが発生しないよう感染管理に注意を払ってまいりましたが、5類に移行してからは職員から患者さんに移ったというケースがありました。詳しくは看護部長からお答えさせていただきます。

(田井看護部長)

面会についてですが、患者さんとご家族が会える機会を感染予防しながらするというので、平日に限った予約制としております。ただし、お盆ぐらいから石川県は非常にコロナが増えてきましたので、面会時間20分としておりましたが、現在は10分としています。ご家族等が来院された際は、健康チェックを実施させていただいております。

(沖野委員)

先日、「2023年度 JCHO 金沢病院 院内の医師・診療科のご紹介」というパンフレットをいただきました。写真が大変すばらしく、すごく綺麗で笑顔が多く、ベストなものだと感心いたしました。今後ともよろしく願いいたします。

(村本議長)

ありがとうございます。次に真田先生いかがでしょうか。

(真田委員)

今回お聞きしたいことが3つあります。まず1つ目は、コロナにおいて看護師が非常に疲れていると思います。それで他の病院、特に東京やあるいは都市部において新人よりも中間層の看護師が辞めていくケースが多く非常に困っているという事が起こっております。そのために、何が起こってくるのかというと、中堅の方が抜けていくと褥瘡発生率やあるいは転倒、今回も転倒が増えていましたし、それから誤薬も増えておりました。ナースの離職率は10%が一般的なものですが、その点比較していかがでしょうか。

(田井看護部長)

コロナが始まり離職は多少ありましたが、新人の離職はここ1年で0件です。中堅層の疲弊等が離職に繋がることのないかというご質問ですが、実際に離職率は5~6%で当院は若干低めであると認識しております。育児時間を使いながら働いているお母さん世代の人たちも上手く時間の活用をしながら働けるような職場環境、業務改善の工夫をしています。多少疲れがみえるスタッフに関しては、師長との面接に加えて第三者的に臨床心理士の先生をお招きしてカウンセリングをして自分の疲れを吐き出したり、セルフコントロールに関するアドバイスをもらったりすることで働ける体制というか、本人たちにもアドバイスをいただける機会があることの安心感からか、ここ1~2年間の離職率は減っております。

(真田委員)

素晴らしいですね。実は今一番困っていることは、中堅層がなぜ抜けていくのかということ、リクルートの会社が増えてきて、そのリクルートの会社はものすごく丁寧にケアをします。その会社は何が本当に辛かったのか、それからどんな病院でいくら欲しいのかを一本釣りのようなことをして、都会ではどんどん中堅層が抜けていて困っている。貴院では新人が抜けていないということをお伺いして、大変ケアが良く、個人のメンタルケアが行き届いていることがよくわかりました。

(田井看護部長)

本日は教育担当の副看護部長が同席しておりますので、教育的な支援策についてもご紹介させていただきます。

(水谷副看護部長)

教育に携わる中堅層は、新人が確実に育っているのか、または業務に追われて自分たちの看護が本当にできているのかというジレンマが退職に繋がることもあります。教育のプログラムの中に看護を語るような機会を設け、やりがいとか自分の目指すものがどこかというところを振り返ることが、離職防止にも繋がるのではないかと考えております。

(真田委員)

ありがとうございます。3つ質問をしようと思いましたが大体全部お答えいただけました。あと誤薬の件数がやはり増えていること、それから褥瘡発生、推定発生率が増えていることはコロナに関係しているのか、他に理由があるのか、改善点をどのように今後お考えになられるのでしょうか。看護の質評価は大きく3つで、褥瘡、転倒、誤薬だと言われていますが、その点はいかがでしょうか。

(田井看護部長)

褥瘡の有病率や表を資料に出しておりますが、確かに例年有病率発生率等が上がっております。コロナの影響が非常に大きいのですが、私たちもこの中で何がそんなに増える原因なのか少し分析していますけれども、院内の発生患者さんは令和3年4年とも26~28人、そして持ち込みの患者さんも52人ちょっとということで大きな差はないですが、やはり令和4年度に関しては、56人の持ち込みのうちコロナ患者さんが18人いらっしゃいました。結局コロナで入院されて褥瘡を持ち込んでコロナは少し良くなったけれども、誤嚥性肺炎になって寝たきりとなり褥瘡が発生した。その中でも褥瘡は仙骨や踵部に多いですし、下痢とかのCD（クロストリジオイデス・ディフィシル）の患者さんが多い傾向があります。

あとは、栄養状態を良くするために経鼻での経管栄養の患者さんが増えています。今まで使われていなかった腸を使うことによって下痢が増えたりするということもあります。下痢用のオムツの改善ということで、昨年度より軟便対策に特化したオムツを採用したところ、下痢によるスキンケアが減っていると聞いております。また、保湿ケアをきちんとするということが大事なかなということで、そこもWOC（皮膚・排泄ケア認定看護師）が中心となりながら指導ケアすることによって褥瘡の予防に努めているという状況です。

(真田委員)

ありがとうございます。端的に申し上げると褥瘡有病率は上がると思います。やはり地域から入ってくるだけ忙しくなっているはずですが、褥瘡の多い患者さんの持ち込みが多いということは、やはり新規も持ち込みが多いと新規の患者さんには手が回らないこともあったと思いますので、これは仕方ないことかなと思

いながらお聞きいたします。でも素晴らしいケアだなと思います。

最後に私が申し上げたいのは、来年度から特定の皮膚排泄ケア認定看護師コースを当大学で始めますのでぜひ、送っていただければ大変嬉しく思います。以上でございます。ありがとうございました。

(村本議長)

では、続きまして安田先生いかがでしょうか。お願いします。

(安田委員)

JCHOさんにはコロナの患者さんをたくさん受け入れていただいたこと本当に感謝申し上げます。また、村本院長をはじめ一丸となって地域の医療を支えていただいていることに感謝申し上げます。

今回のコロナで県立中央病院もコロナの患者さんの入院が増えまして、多少根詰まりがあったと聞いています。JCHOは県立中央病院に近いという立地からも、今後の感染症に加え、地域医療構想での立ち位置や役割分担について、どの様にお考えでしょうか。

(村本議長)

県立中央病院が圧倒的な求心力を持って患者さんを集めているわけなので、そこと連携することが周辺の病院の生き残る道と言っても過言ではないかと思えます。先生がおっしゃいましたように地理的に当院が近いものですから、県立中央病院の超急性期を脱した急性期もしくは回復期の患者を積極的に引き受けて県立中央病院の協力をするという立ち位置で今後も連携を強化したいと思っております。

(安田委員)

我々としてもJCHOさんがそういう立ち位置で病院のこれからを考えているということで、地域医療を考える立場として非常に心強く思っております。今後もよろしく願いいたします。

(村本議員)

ありがとうございます。鍛冶先生いかがでしょうか。

(鍛冶委員)

JCHOさんには金沢市の医療を支えていただき本当にありがとうございます。

ご説明の中にありましたけれども、コロナも初診の患者さんも積極的に診ていただいたということで、その中でかえって紹介率が下がったというお話がありました。我々も軽症のコロナ患者は診療所レベルで診るべきですけれども、動線分離が必要で手間暇がかかりますし、ワクチン接種やすこやか健診も受けており、精一杯やっていますがJCHOさんに流れているということで大変申し訳なく思っております。

その中で、紹介重点医療機関について今回は見合わせられたということで、その理由としてかかりつけの患者さんもたくさん持っておいでるのでというお話もあったかと思えますけれども、もう一つ危惧しているのが、機能の住み分けで病院の先生方の過剰負担を避けるというか外来の負担を下げた高度医療に専念できるというような環境を整えるというのがこのスキームの目的の一つだと思います。そのあたり病院の先生方の過剰な負担ということについては働き方改革も含めて心配しているところですがいかがでしょうか。

(村本議長)

ありがとうございます。働き方改革と地域医療構想が同時進行しており、働き方改革に関しては大学病院

のような B 水準とか C 水準のよう長時間働くというのではなくて、当院は A 水準に収まっているという点でございます。鍛冶先生がおっしゃった紹介受診重点医療機関を遅らせた点ですけども、経営的な判断も含まれています。いきなり環境が急変いたしますと相当な影響を受けることが考えられ、特に当院のマイナー科に関しては壊滅的な影響を受けるのではないかとの認識もあり、半年、1 年かけて体力を作っていくということで時間を頂戴したということでございます。

(鍛冶先生)

応援しております。ありがとうございます。

(村本議長)

それでは、表課長さんよろしく願いいたします。

(表委員)

皆様にはコロナ対応で大変お世話になりました。現在もコロナの受入れを積極的に行っていただきありがとうございます。

私からはマイナンバーカードの関係でお聞きします。JCHOさんの受付等でマイナンバーカードに関して何かトラブル等が発生した事例はありましたでしょうか。

(村本議長)

事務部長は聞いていないとのことです。

(小西事務部長)

それほど利用がないというのが現状というふうに理解しております。

(表委員)

わかりました。ありがとうございます。

(村本議長)

続きまして、松本課長いかがでしょうか。

(松本委員)

日頃より本市の休日当番医とか夜間の急病診療等にご協力いただき本当にありがとうございます。コロナ患者への対応や、昨年はコロナのワクチン接種、乳幼児等の接種にご協力いただき感謝申し上げます。

資料の数字の点で 23 ページの医療相談件数のところですけども、医療費、生活費の相談の件数が令和 4 年度につきましてはそれまでの 1.5 倍ぐらいに跳ね上がっているかというふうに思いますけども、一番下に医療費の支払いで経済的な問題での相談が増えているということが書かれており、詳細な分析は難しいと思いますが、肌感覚としてやはりここら辺もコロナの影響による収入減というものが影響していると考えればよろしいでしょうか。

(小西事務部長)

まさに課長がおっしゃられるとおりでと思っております。そういった相談件数が増えている中で、やはり

コロナで生活に直接打撃を受けているという患者さんも非常に多いという声を聞いております。

(松本委員)

わかりました。ありがとうございます。

(村本議長)

続きまして、蔵委員代理の小西さんコメントをお願いします。

(小西救急救助係長)

日頃より救急患者の受け入れにご協力いただき、ありがとうございます。

救急出動件数に関してですが、昨年金沢市内において初めて 20,000 件を超えました。今年はそれを上回るペースで救急出動件数は推移しております。先月 7 月は過去最高の 2,222 件救急出動しており、当局では今月から救急車 1 台を臨時増台しまして玉川出張所に救急車を配置している状況です。

搬送困難件数も増えてきておりますので、JCHO さんも多く受け入れていただいております、ありがたいですけれども、救急隊から要請が入りましたら、よろしくお願ひしたいと思います。

(村本議長)

JCHO では救急応需率 85% 以上を目標に掲げておりますが、だいたい 60% から 70% 強です。医局の先生方に言っはいますけれども、やはり依頼件数が多くなってくると手一杯である。中には自分の専門外だからという人もいます。一巡して他に行くところが無かった際には二巡目にもう一回ご指名ください。

(小西救急救助係長)

ありがとうございます。

(村本議長)

では、松野会長お願ひいたします。

(松野委員)

包括支援センターもろえでお世話になりありがとうございます。

院長先生から医療関係の病院では結構赤字を出しているとの話を聞き、今後更に厳しくなる中で JCHO はどのような対応をするのかと思ひましたら、県立中央病院とタイアップしながら前向きに対応していくということで安心しました。

私もある病院の理事をしていますけれども、その院長は 20 年近くではじめて赤字を出したそうです。そういうことでどこの病院も大変苦勞していると改めて理解しました。これからも大変お世話になります。がよろしくお願ひします。

(村本議長)

よろしくお願ひします。それでは患者さん代表ということで福島さんお願ひします。

(福島委員)

万が一、病院が倒産したらどうなるかを考えてしまいます。お話を聞いていると不安な気もしますし、大

丈夫なのかなとも思います。資料を見ても数字ばかりで喜んでいいのか、病院としてはどういうふうに数値全体を受け取っていますか。

また、パンフレットについては、私も楽しみにしており、もっと多くの人に読んでいただきたく、先程の沖野先生の話聞いて嬉しくなりました。

(村本議長)

ありがとうございます。今言われたのは数字だらけで理解に苦しむという意味合いもごございますでしょうか。

(福島委員)

もちろんあります。

(村本議長)

わかる人は数字を見ただけで色々なイメージが浮かぶようです。資料をお持ち帰りいただきまして、ご自宅ゆっくり読んでいただいた後でも、ご意見いただけたらと思います。どうもありがとうございました。

6. 閉 会

(村本議長)

全体を通じまして、他にご意見がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

本日は本当にお忙しいところご参加いただきありがとうございました。これをもちまして閉会といたします。今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。